

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 施設整備費（森林文化アカデミー）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 総務課 電話番号：05575-35-2525

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 21,419千円（前年度予算額：38,715千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	38,715	0	0	0	0	0	0	32,200	6,515
要求額	21,419	0	0	0	0	0	0	0	21,419
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

- ・森林文化アカデミーの施設は、平成12年に特徴ある木造建築で造られたが、築後相当期間が経過し老朽化が著しい。
- ・特に、常に雨にさらされる、屋根等のない箇所の腐朽が著しい。
- ・また本学の敷地は門柵塀が無く、構内道路は一般地域住民が自由に通行することができるなど地域に開かれた施設である。学生はもとより地域住民に対しても施設破損による事故発生の危険を防止するため、修繕が必要である。
- ・施設の長寿命化を図るべく、施設改修を実施する。

（2）事業内容

施設改修を実施する。

1. 長寿命化計画対象施設の改修
 - ・令和3年度は該当なし
2. その他の施設の改修等
 - ・オープンラボ空調更新工事
 - ・ウォータークーラー設置工事

- ・エレベーターメンテナンス
- ・使用済ガスヒートポンプ空調機の冷媒回収

(3) 県負担・補助率の考え方

県公共施設修繕のため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

- ・県有施設修繕費（総務部管財課）

単発的な比較的小規模な修繕を想定しているもので、計画的に行う修繕は各部において対応する。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額千円	事業内容の詳細
工事委託料	2,575	設計委託料
業務委託料	1,650	空調の冷媒回収委託
工事請負費	15,508	空調更新、ウォータークーラー設置
修繕料	1,686	エレベーターメンテナンス
合計	21,419	

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

建物の老朽化対策について、専門家による調査を実施した上で、その結果に基づき、緊急性の高い案件から順次施設改修を実施することとする。

事業評価調書

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・森林文化アカデミーの建物・施設の腐朽部分を修繕する。また、県有施設中長期保全計画により施設改修を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

- ・既存建物・施設を修繕するものであり、数値的な指標を設けることは困難。

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・森の情報センター及びテクニカルセンター空調設備更新工事
- ・林業機械学習棟火災報知設備設置工事
- ・ガスバルクタンク撤去委託

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・老朽化し故障が多い空調の更新等により、施設環境の向上を図ることができた。
- ・今後も危険個所を修繕し、安心・安全な施設管理を目指す。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	アカデミー学生その他、生涯学習、短期技術研修で多くの一般県民なども利用する施設であり、安心安全に学習・研修を受けていただくために、腐朽した建物・施設を修繕する必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	老朽化による危険個所を集中的に修繕している。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	修繕は今後の維持管理について考慮した工法を検討している。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 建築後相当期間が経過し、建物・附随施設の更新時期（耐用年数を超えている）のため、順次修理・更新等の対応が必要である。 大規模修繕に至る前に、日常のこまめな維持補修を行うことでトータルコストの削減を図ることが期待できるので、必要な経費の適切な配分が求められる。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 森林文化アカデミーは県の森林技術者育成機関として、森林技術者が高齢化する中で重要性を増している。このため、アカデミー施設の延命、安全化を図るべく施設修繕整備を進める。
